

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

| | | | |
|-----------|--|---|--|
| 事業名称 | 令和6年度とつか さくら塾 | | |
| 事業の実施者 | 団体等 | NPO 法人くみんネットワークとつか（とつか区民活動センター） 戸塚区社会福祉協議会 | |
| | 行政 | 横浜市戸塚区区政推進課 | |
| 事業の目的 | 地域で活動する区民等が本事業で学ぶことで、地域のさまざまな問題を解決していく「自治の力」の向上を目指し、「住みたくなる・住み続けたくなる」と思える地域づくりにともに取り組むための場を提供する。 | | |
| 事業の内容 | 講座（全4講）を開催し、地域での活動事例の紹介や、活動現場の訪問・まち歩きの講座を通じて各参加者が活動プランを作成する。 | | |
| 役割及び責任分担等 | 項目 | NPO 法人くみんネットワークとつか (とつか区民活動センター) | 戸塚区社会福祉協議会 横浜市 |
| | 企画、連絡調整 | 企画、講師・関係機関等との連絡調整 | 企画、連絡調整補助 企画、連絡調整補助 |
| | 会計経理 | 出納管理、経費執行管理 | |
| | 広報、受講者募集 及び受講者への連絡 | 広報物の作成、広報 | 広報 広報、申込受付、受講者への連絡 |
| | 講座当日運営及び 備品等の準備 | 資料印刷、運営監理、 グループワーク支援等 | 運営補助、 グループワーク支援 運営補助、 グループワーク支援 |
| | 記録、報告書の作成 | 記録、報告書の作成 | 記録 記録 |
| | 振り返り、受講生の フォローアップ | 振り返り、受講生のフォローアップ、OB・OG 会の育成支援 | 振り返り、受講生のフォローアップ 振り返り、受講生のフォローアップ |
| 実施期間 | 令和6年6月17日から令和7年3月31日 | | |

| 記入日 | 7年3月27日 |
|-----|---|
| 記入者 | ・ 団体等名 : NPO 法人くみんネットワークとつか ・ 記入責任者（連絡先）(とつか区民活動センター) 中嶋 伴子 (045-825-6773) ・ 団体等名 : 戸塚区社会福祉協議会 ・ 記入責任者（連絡先）住原 実夏 (045-866-8434) |
| | [行政] 横浜市戸塚区役所 ・ 部署名 : 区政推進課 ・ 記入責任者 松本 未来 (045-866-8328) |

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できしたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

- ・3者の地域支援に関する情報やノウハウを活かしながら、計画内容を協議することができた。
- ・3者で実施内容の検討・打合せを行うことで事業の目的を共有し、講座の計画づくりに活かせた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・地域活動もデジタルを活用する内容が必要となってくることが考えられ、今後はデジタルの項目などを取り入れることも考えながら計画づくりを進めていくことも必要かもしれない。
- ・受講生募集に際し、より多くのステークホルダーへアプローチする広報計画が必要であった。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できしたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

- ・計画から3者で協議を重ねたことで事業の目的を捉え、適切な構成や資料の提供などをしながら各講を実施することができた。
 - ・人材育成の講座では対面がポイントとなること、また、受講生にも負担とならない講座内容を構築していくことが重要である。

【今後改善が必要と思われること】

- ・訪問場所や関係者などに対して、事務局から直接連絡を取り、挨拶や必要な情報の提供を徹底する必要があった。これにより、訪問先とのコミュニケーションが円滑になり、当日のトラブルを防ぐことができる。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・受講生のアンケート結果からも、講座内容にほぼ満足が得られており、「地域の活動に触れ、関心を高める。」、「地域活動の継続への自信」などの事業の成果が得られた。
- ・講座後にも受講生同士が交流し、地域活動に取り組んでいく動きが生まれた。講座内で交流の機会を多く設定したことが寄与していると思われる。

自由記入欄

- ・立場が異なる3者が、地域の担い手づくりに向けて連携・協働して取り組むことは重要であり、また3者で地域課題を共有する場にもつながっている。